総務省消防庁無償使用車両「津波・大規模風水害対策車」の運用開始について

消防庁広域応援室（三重県　津市消防本部）

消防庁では、平成28年度にエネルギー・産業基盤災害対応型消防水利システム２セット、拠点機能形成車２台、津波･大規模風水害対策車３台を配備いたしました。

このたび、三重県津市消防本部に無償配備いたしました津波・大規模風水害対策車の運用が開始されましたので御紹介いたします。

環境と共生し、心豊かで元気あふれる美しい県都「つ」

津市は、三重県の中央部を横断して位置し、広大な市域の中で、豊かな自然環境と、県庁所在地として都市機能が集積した恵まれた地域です。「世界一短い市名のまち」としても多くの人に親しまれていますが、江戸時代には築城の名手である武将、藤堂高虎が伊勢国・伊賀国の領主として入り、津城を中心とした城下町として発展するとともに､伊勢参宮の街道を城下に引き入れるなど、交通の要衝として街道を整備したことにより、宿場町としても賑わいました。

現在も中部圏と近畿圏の結節点として、さらには、中部国際空港への海上アクセス拠点「津なぎさまち」を擁した交通ネットワークの拠点として、今後の発展が期待されています。

津市消防本部は、平成18年１月１日、津市を始め10市町村の合併に伴い、従来の津市消防本部と久居地区広域消防組合消防本部を統合して､新しい「津市消防本部」として発足しました。消防本部以下、４消防署、８分署、１分遣所の組織体制で火災を始め複雑多様化する様々な災害から、管内約28万１千人の市民と郷土を守るため、消防力の向上と充実に努めています。

津波・大規模風水害対策車の配備

平成29年３月27日に総務省消防庁から無償使用車両として、「津波・大規模風水害対策車」が当市消防本部へ配備されました。この車両は、東日本大震災での津波により、瓦礫が山積する現場や広範囲に浸水が続く現場での消防活動に苦慮した教訓を踏まえ、冠水地域において円滑に消防活動が果たせるよう、水陸両用バギーや水難救助資機材を装備した緊急消防援助隊車両として、消防庁が全国に配備を進めている無償使用車両です。

東日本大震災においては、当消防本部からも緊急消防援助隊三重県大隊として、９日間、延べ32隊142名が出動し、仙台市若林区の沿岸部を中心に救助活動を実施しましたが、津波による瓦礫や浸水等により、資機材及び要救助者の搬送に苦慮し、悪路が続くエリア内の検索に長時間を要しました。

当消防本部では、津波や大規模風水害時における消防活動の機動性を向上させるために、この「津波・大規模風水害対策車」を水難救助隊に配置し、市長視閲訓練を経て、平成29年４月28日から運用を開始しました。

津波・大規模風水害対策車と水陸両用バギー

前葉 津市長による視閲訓練の状況

庁舎内施設での訓練の状況

より充実した活用に向けて

⑴　水難救助訓練を通じて技術の向上・研究

年間通じて実施する水難救助訓練において、水陸両用バギーを中心とする当該装備のより充実した活用方法等について研究し、水難救助活動の向上を図ります。

⑵　他の配備先消防本部との連携を強化

「津波・大規模風水害対策車」については、平成29年４月時点において、当消防本部を含め全国22消防機関（道府県）に緊急消防援助隊車両として配備されています。

津波や大規模風水害への対応は、広範囲に及ぶことから、当該車両が複数隊連携し、より効果的に消防活動を展開する必要があると考えています。緊急消防援助隊地域ブロック合同訓練に加えて、隣接する当該車両配備先消防本部（緊急消防援助隊都道府県大隊）との合同訓練についても積極的に計画し、連携強化に努めていきます。

⑶　水陸両用バギーの空輸を検討

孤立した災害現場へのより迅速な対応として、比較的軽量である水陸両用バギーのヘリコプターによる空輸について、三重県防災航空隊や自衛隊と調整し、実現に向けて検討していきます。

これらを踏まえて、当消防本部では南海トラフ地震を始めとする大規模災害時の応援に備えて、所要の訓練・準備を進めているところです。

おわりに

消防庁としましては、今後、訓練等を通じて、装備・資機材の習熟を図っていただき、大規模風水害時等には、緊急消防援助隊として効果的な活動を行い、人命救助活動に役立てていただくことを期待しています。

問合わせ先
消防庁国民保護・防災部防災課広域応援室
広域応援施設係
TEL: 03-5253-7527
津市消防本部
消防救急課　警防担当
TEL: 059-254-0357